

平成27年度事業計画

平成27年度は基本的には事業をそのまま引き継ぐが、役員改選の年にあたるため各種手順書を基にとどこおりなく会務を遂行したい。

新規または重要な事業を下記の通り計画する。

【総務部】

- ①一般社団法人移行に伴っての問題点を検証する。
- ②新しい規定および手順書の整備を行う。

【学術部】

- ①平成28年度に新潟で開催される第5回日臨技北日本支部学会の組織づくりを行う。
- ②日臨技の検査研究部門に合わせた体制を整える
- ③検査研究部門活動の助成金申請を昨年度同様に20研修会申請する。

【広報部】

- ①ホームページのさらなる充実を図る。

【総務部】

1. 会務の執行体制

平成27年度は役員改選期にあたるが、円滑な業務運営を進めるうえで、各種規定・マニュアル等の一部に現状と合わなくなってきている部分もあり、理事会等で議論し運営上支障のないよう改定したい。

また、活動の要である事務局機能は、各県技師会および日臨技との連絡・調整の場として、更なる会員サービスの向上に努めたい。組織強化の面からは、日臨技、北日本支部、新臨技支部、会員各位と協力しながら情報交換を図り、一人でも多くの会員から技師会の意義を感じ取ってもらえる環境・体制を整えたい。

2. 諸会議

1) 理事会・常任理事会

会議の招集、運営が非常に厳しい状況ではあるが、連携を密にするためにも、会議時間の短縮や運営方法を再検討しながら、総会に次ぐ議決機関として年6回の理事会と常任理事会を開催したい。

2) 三役会議・各部会議

諸会議の立案や各種業務内容の検討・調整を図るため、必要に応じて適宜開催する。

3) 各種委員会

本会活動の要としての役割を担っており、本年度も更に活発に運営して行きたい。

災害被災県としての経験を踏まえ、災害支援マニュアルにある災害支援メーリングリストは、災害時の支援活動や会員の安否確認に威力を発揮できるものと期待しており、多くの会員から賛同いただき登録者を増やしていきたい。

4) 日臨技北日本支部医学検査学会

次年度の学会開催予定を控え、開催日、会場、内容等について、理事会で検討していく。

3. 組織対策

1) 臨床検査セミナー

毎年、第1回通常総会と同時開催している臨床検査セミナーは、技師会事業として定着している。

内容も市民公開講座による臨床検査技師のアピールや、臨床検査技師の卒後教育等を企画し自己研鑽の場として今後も積極的に開催していきたい。

2) 各支部との連携

各支部持ち回りの秋の学会運営が定着しており、開催支部の特色を出しながら学術部と支部の連携のもとに多くの会員参加を募り、本会の事業方針の展開と臨床検査の発展を目指したい。

3) 入会対策

益々厳しくなる医療情勢ではあるが、職能団体としての機能をさらに発揮するためには組織拡大と成熟が重要であり、各支部、各施設の理解と協力を得ながら新入会員を確保して行きたい。

また、臨床検査技師の地位向上および職域拡大を進めるためにも、臨床検査技師連盟への入会促進に積極的に働きかけていく。

4. 公益活動（地域保健医療活動）

一般社団法人として更なる県民の保健・医療・公衆衛生の向上と臨床検査技師の社会貢献による知名度向上を目的に、日臨技の事業および学会時の公開講演や健康展、関連職種団体との連携強化を進め、本年度も地域保健医療活動に積極的に参画して行く。

5. 求人情報の提供

求人情報の提供として日臨技への情報登録に留め、会員へは新臨技ニュースやホームページ等で求人情報を提供したい。

6. 表彰関係

1) 篠川至賞

平成27年度で第33回となる篠川至賞は、その制定主旨により、各支部からの推薦者の中より篠川至賞選考委員会の審査を経て表彰されるものであり、会員の励みにもなっている。検査研究部門からも情報協力いただきながら各支部からの積極的な推薦をお願いしたい。

2) 会長表彰

特別功労表彰、永年会員功労表彰は、新臨技表彰規定に基づき、それぞれの基準に該当する者について表彰委員会の審査を経て、毎年の通常総会において表彰する。

3) 生涯教育奨励賞

多くの会員の生涯教育および学術活動への参画と活性化を求めべく、分野に関わらず最多得点者の上位3名を推薦する。

4) 生涯教育新人賞

臨床検査教育の場としての研修会等への参加を通じ、更なる技師会活動への参画に期待し、分野に関わらず20代会員の最多得点修了者を表彰する。

【学術部】

平成27年度活動計画（案）

理事の改選に伴い、学術部活動がスムーズに行える体制を整える。平成28年度開催第5回北日本支部学会開催にむけての準備をつつがなく進める。検査研究部門は日臨技の研究部門にあわせて再編成を行い、県から北日本支部、そして日臨技へ切れ目ない研究部門の活動を行える体制をつくる。例年通り、日臨技の生涯教育推進事業は20研修会の申請を目指し、活動を行う。精度管理は昨年度より、一般検査の内容が追加され、より充実したサーベイを構築していく。

1. 学会

第90回新潟県臨床検査学会を平成27年10月12日（月・祝）に朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて開催する。平成28年に新潟市で開催する第5回日臨技北日本支部学会開催に向けた準備を兼ね、平成27-28年度理事、検査研究部門を中心に講演などの企画、運営にあたる。新潟県臨床検査学会において分科会形式が定着し、それぞれの部門では専門性の高い内容の講演会、シンポジウムが開催されている。これに加え部門を超えた多部門合同で、互いに学び合う企画を実施したいと考える。また、一般演題は演題数の伸び悩みに苦慮しているのが実情である。若手技師を中心に学会発表に向けての準備、発表経験の場としてもらえるように検査研究部門中心に発表を促していきたい。

2. 検査研究部門

検査研究部門が行う各種研修会は、技師会において最も重要な活動のひとつである。医療制度や各分野における検査技術は大きく変化し、新たな知識や技術を臨床検査技師が習得していくことは極めて重要である。これらの知識や技術を学ぶ各種研修会の果たす役割は大きい。

これまで検査研究部門は、生物化学分析部門（臨床化学分野、免疫血清分野、染色体・遺伝子分野）、生理機能検査部門（生体機能分野、生体画像分野）、形態検査部門（細胞分野、病理分野、一般検査分野、血液分野）、感染制御部門（微生物分野、疫学・公衆衛生分野）、移植検査部門（輸血・移植分野）、総合管理部門（管理運営分野）の6部門13分野で構成されてきた。しかし、日本臨床検査技師会や北日本支部において学術組織の再編が行われ、各県組織での学術組織のこれに合わせる事が適切と判断されたため、本県においても今年度から検査研究部門の体制を再編して、9部門3分野の体制とする。

新体制は、生物化学分析部門、臨床一般部門、臨床血液部門、臨床微生物部門、輸血細胞治療部門、病理細胞部門、染色体・遺伝子部門、臨床生理部門（神経生理分野、呼吸・循環生理分野、超音波分野）、臨床検査総合部門により構成される。

各部門の活動費は12万円、各分野は8万円とし、当事者負担の原則の下で過剰な負担が及ばない程度の参加費で運営経費を補完する。非会員の研修会参加費は、会員の3倍とし、会員利益と活動費補完をはかる。また、参加は会員優先とし特に人気の高い実習形式研修会では会員に不利益が生じないものとする。

研修会の内容は、若手技師や認定技師等の資格取得教育、最新情報などを考慮して、様々な状況にある会員に有用な情報をバランスよく発信できるような体制を整備する。

技術や知識が複数の分野に係る内容に関しては、複数部門での合同研修会や相互補完研修会を企画する。各研究分野と協力し、系統的な人材育成や生涯教育を行い、魅力ある学術活動を目指したい。研修会の形式は、講演に加えて、実習形式による研修会を推進する。また、日臨技や支部での研修会を伝達する形式での研修会も奨励する。

研究分野や支部との連絡を密に行い、会員が他分野など多くの研修会に参加し、幅広い知識や技術を習得できるよう、研修会開催日の重複を避け、開催地の地域格差を軽減する。

若手技師に対する学会発表や論文執筆などの技術的サポート体制を整備し、県学会や支部学会、全国学会での学会発表、医学検査をはじめとする学術雑誌への論文投稿を推進したい。昨年度は新潟で医学検査学会が開催された。今年度は、ポスト全国学会の年度となるが、新体制の下で活発な学術活動を展開していきたい。

3. 精度管理事業

本事業は新潟県医師会が新潟県から委託を受け、新潟県臨床検査精度管理協議会を設置して推進している事業である。本会としては、会員の技術向上に重要な事業であるという位置づけで本年度も積極的に協力していく。

今年は、委員を新たに選出し、関係専門スタッフで構成し、精度管理委員会を中心に本事業の内容を更に充実、発展させていきたい。また本年度も臨床化学、微生物、血球計算の調査のほか、昨年より開始した一般フォトサーベイをさらに充実させ実施していきたいと考えている。平成19年度より日臨技データ標準化事業がスタートし、それを踏まえ実施項目を増やし、標準物質が入手可能な項目については随時評価を行ってきたが、本年度もそれらに努めたい。また配送及び梱包方法をより検討し、ミスの無いように実施していきたい。更に日臨技と密に連携をとり、データ報告から施設別報告までスムーズにいくように、システムの改善に努めていきたい。

また、日臨技の「臨床検査室精度保証認証制度」についても今年度は多くの施設が申請を行なっていただくように啓発を進めていきたい。

4. 生涯教育

生涯教育研修制度は、臨床検査技師の知識や技術水準の維持・向上を目的とし、会員の自発的な学習を組織的に援助する制度である。会員は定められた履修期間・カリキュラムを基に履修点数を取得する。日臨技情報総合システム（JAMTIS）で管理されており、行事登録や参加者登録は各都道府県技師会で行っている。本年度は役員改選の年ではあるが、マニュアルを基に各検査研究部門・各支部担当者から登録作業を行っていただく予定である。不明な点があれば、県担当理事との連携を密にし、円滑な事業の推進に努めていく。また、ボランティア活動や臨床検査の普及のための啓発活動などに対して生涯教育行事登録を行い、活動を支援していく。

【広報部】

新臨技会誌、新臨技ニュースおよび新臨技ホームページの運営を通して全会員へ向けたレスポンスの良い情報を例年通り安定提供したい。また新たな部門編成に合わせた形でHPを作成し、各種研修会案内の更新をスムーズに更新できるようなシステム作りや、公益活動予定（ボランティア募集含む）さらに新潟県臨床検査学会要綱、一般演題投稿規定等の情報を迅速に対応して会員のニーズにこたえていきたい。県理事、各支部理事および会員全員で情報の共有化を尚一層強化するためにも、新臨技会誌、新臨技ニュース、新臨技ホームページを充実させ、会誌やホームページの充実に熱意を持って取り組んでいきたい。

1) 新臨技会誌

会誌発行は295号から298号までの年4回季刊発行を予定する。〔講義・研究〕は多分野に渡り基礎的内容から技術革新に取り組んだ内容を掲載していきたい。また研修会を受講できなかった会員のための適宜掲載も同時に行ないたい。〔研修会報告〕は参加会員の協力により引き続き掲載し、情報提供や新人会員の研鑽の頁としたい。〔ペンリレー〕〔新入会員紹介〕〔検査技師として～私の思い出～〕などの掲載で会員相互の親睦をはかり、誰もが参加できる企画を増やしていきたい。〔公益活動報告〕を掲載することにより、多くの会員に活動を知っていただき、ボランティア参加への啓蒙ツールとして掲載していきたい。

2) 新臨技ニュース

理事会議事録の掲載を中心に、組織活動、研修会案内、求人情報など速報性のある内容を順次掲載していきたい。読みやすいレイアウトになるように心がけ、今後も広く会員に読まれるよう工夫していきたい。発行は理事会終了後の月1回発行できるよう努めたい。

3) 新臨技ホームページ

新臨技ホームページは、案内・各支部活動・研究班活動の内容がリアルタイムに閲覧できることより、世

代を問わず多くの会員から好評を得ている。引続き事務局との連絡を密にして、県内の会員に情報提供できるよう努めたい。

また、当技師会は、大規模災害時での施設および会員安否確認のため災害時緊急連絡システム（メーリングリスト）を全国に先駆けて構築している。インターネット・インフラの強みが先の大震災で証明され、災害被災県である我が県が、災害支援事業でリーダーシップを発揮し全国を牽引していくためにも、一人でも多くの新臨技会員の登録をお願いしたい。（詳細は県技師会ホームページ参照）